



鈴木 務 議員

“いじめ”について

問 いじめは年々増加傾向にあり社会問題となっている。いじめを受けた児童生徒は心身の健全な成長および人格形成への影響のみならず、その生命または身体に危険を生じる恐れがある。いじめは重大な人権侵害であり絶対にあってはならない。全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることが望まれる。いじめに対する①市内小中学校の状況②いじめ解消、防止対策、重大

事態対応、さらに、新たな情報化社会の問題となっているSNSの対応策等について伺う。



答（教育長） 昨年度の市内児童生徒のいじめ認知件数は小学校2,473件、中学校363件であり、今年9月末の調査では全て解消に至っている。いじめ防止対策については、いじめ防止基本方針の作成やいじめ問題対策連絡協議会で有識者からアドバイスを受けている。重大事態対策については、ガイドライン等を基に研修や指導を行っている。

SNS等の問題については、各学校で外部講師を招き、情報モラル教育を実施している。

古河はなももマラソンについて

問 中高生の参加費について、中学生対抗駅伝競走および仮装競技大会提案について伺う。

答（教育部長） 10キロメートルの部の高校生の参加費は一般と同額となっているが、市外では一般より安くしている大会があることや高校生の参加が少ない状況から、次回から参加費値下げの方向で協議を進めたい。中学生対抗駅伝は大会時期が学校の繁忙時期等により実施されていない。仮装競走は、フルマラソンとは別に導入検討したい。



阿久津 佳子 議員

古河市の地域防災・減災計画について

問 台風19号では古河市民約10万人に避難指示レベル4が発令された。避難方法や避難所の在り方等において多くの課題が浮き彫りになった。「誰も取り残さないインクルーシブ防災」を実践するため、①正常性バイアス、同調性バイアス（自分は大丈夫、周りが避難しないから大丈夫）を打破し、熟慮かつ直感による判断力を養うために、利根川、渡良瀬川、思川の越水や決壊を

想定したシミュレーション映像等による視覚的体験がバイアスを弱める一助になると考えるがいかがか。②古河市福祉避難所基本計画にある基本施策実施の進捗状況について伺う。

答（市長） ①シミュレーション映像や画像による啓発は、ハザードマップとは違い、視覚的にインパクトがあり、災害を現実のものと感じる効果があると思われる。利根川上流河川事務所は河川情報や映像等の資料を多く持っていると思うので新しい啓発教材の作成ができるよう働きかけていきたい。

答（健康福祉部長） ②基本施策実施の進捗状況について、福祉避難所や福祉スペースは、全ての指定避難所に併設目標があり、

確保に向け、施設管理者と協議、工夫を重ねていく。福祉避難所のバリアフリー化については、数種類の簡易スロープを購入した。高次民間福祉避難所は、市内特別養護老人ホーム9カ所と協定を締結し1病院9施設となった。福祉避難所の追加指定、民間宿泊施設等との連携については、協定締結に向けて準備を進めていく。要配慮者を移送するための方策については、さまざまな可能性を模索しながら引き続き検討していく。

(※)



台風19号 真夜中の緊急避難！

※提供：利根川上流河川事務所